

山に親しみ山に想う (13)

— 濟州島の寄生火山 (5) —

<文・写真> =岡本=

5. オルムと現代史

濟州島内を隅々まで歩いてみると、現代史の生々しい遺物、痕跡に出くわすことがある。それは韓国史の断面であり、日韓関係史の「吹出物」である。

(1) 李承晩の別荘

ミンオルム(標高362m、比高102m)の頂上から李承晩元大統領の別荘に下った。「ミンオルムの頂上稜線の西側の樹林帯に、李承晩元大統領の別荘(当時廃屋で個人所有)の横に下る人跡路がある。7、8分で麓に着き、その先約30m辺りに有刺鉄線がある。有刺鉄線の扉を出て、溝を越えると広い草地で、その中に別荘が一棟残っている。寂びしい廃屋。床は抜けそう。ダイニングルームには8人掛けのテーブル、4脚の椅子が乱雑に散在している。壁には牛の頭のレリーフが掛かっている。ベッドルームは3部屋あって、寝台から錆びたバネがはみ出している。手入れの気配は微塵もない。庭の荘重な大木が、故人となった大統領の思いを伝えているようだ。」



李承晩元大統領は、日本の植民地統治下時代にアメリカにあって解放独立運動を行い、1948年に韓国初代大統領に選出され、1950年に北朝鮮南侵により起こされた朝鮮戦争を戦った。その後、内政宜しきを得ず、1960年に起こった学生の反政府デモを契機に下野し、米国亡命の末に客死した。「リ・ライン(李承晩ライン)」の名でもよく知られている。

別荘は、1958年に建てられた「貴賓舎」である。別荘を訪ねたのは、2007年3月11日で3.1節(1919年3月1日を機に起こった大規模独立示威運動の記念日で祭日)に近い日でよく晴れていた。旧左邑松堂里にある350m級のオルムであるピチミオルム、クントルミオルム、ミンオルムを探訪してミンオルムより下ってきた際に、偶然にも廃屋と化し見棄てられた別荘に出くわした。国民のデモで追放されたとはいえ、李の解放独立運動を評価して初代大統領に選出したのではない。毀誉褒貶相半ばするという。李にも、「毀貶」ばかりでなく、「誉褒」も大いにあったであろう。李以後の大統領をみても、司法の裁きを受けた者が幾人もいる。別荘「貴賓舎」は現代史の貴重な有形建造物である。既に10年が過ぎた。今どうなっているのか、気がかりである。

この随想を書きながら、韓国の諺「水に落ちた犬を打つ」(「弱い立場の者に非情の追い打ちを加える」の意味と理解。「武士の情け」の逆のような諺)が頭をかすめた。

(2) 旧日本軍の残滓

(ア) カマオルムの洞窟陣地

濟州島には、太平洋戦争当時の旧日本軍軍事施設の残滓がいたるところに残っている。連合軍の日本侵攻に備えて、本土防衛策として1945年に入って島内の軍事施設強化をしたからである。ハンギョレ新聞社刊「濟州歴史紀行」によれば、「約80余ヶ所に700余ヶの陣地洞窟が残っていると推定され、そのうち最も長い洞窟は、1.2kmのカマオルムの陣地である。」という。そのカマオルムは、島の西側の翰京面にある標高140m(比高51m)の低い、釜を伏せたような馬蹄形のオルムである。濟州洞窟研究所の調査(2000年)によれば、「総延長1179.7mで四方八方に伸びて迷路のようになっており、入口が10ヶ所ある。一部区間は2層構造」だという。カマオルムの洞窟陣地が当時駐屯していた旧日本軍の第58軍司令部陣地であったかについては、ここでなくオスンセンオルムにある洞窟陣地であったとする見方もある。

カマオルムの麓に2004年4月に「平和博物館」が建設された際、洞窟は約300mにわたって補強復元され、一般に公開された。カマオルムを探訪したのは、開館1年後の2005年4月30日である。洞窟は高さ2m以上、幅2m程に掘られた迷路である。材木で補強された洞窟陣地内部は、要所に照明があるだけで薄暗く、人物大の哨兵の人形が立っているが、哨兵が角の曲がりざまに出てくるとギョツとした。オルムに登ったが、ジャガイモ畑があり、松、ススキが生えた変哲もない裏山である。



平和記念館は、洞窟の掘削作業をした人の証言インタビューが観られる映写室と旧日本軍の軍刀、軍服、銃剣、土木工事用具などの他に当時の教科書、官報の類を展示した展示室よりなっている。パンフレットの表紙には、「日帝治下36年の歴史を忘れてはならない歴史の現場」とあり、設立趣旨文には、「太平洋戦争当時、日本軍が駐屯していた洞窟陣地である。後世の者が戦争の現場を訪れ、過去の歴史を正しく学

び反省することにより、和合の花が咲く平和の殿堂になるであろう。再びこの地に戦争の砲声が轟くことのないことを願って、その証拠物を集め博物館を建てる。」とある。

(イ) オスンセンオルムのトーチカ



カマオルムの他に印象的だったのは、オスンセンオルム(「オルムの火口湖」を参照)である。終戦記念日に探訪したこのオルムは、ほぼ独立峰のような地勢であり、頂上部分に板敷きの展望台がある。濟州市街を含め島の北部一帯を一望できることから、ここが軍事作戦上重要だったことが肯ける。頂上部には、30mの距離を置いてトーチカが二ヶ所あり、島の東北と西北に向いている。トーチカ内部は5~

6名が入れる程で広くはない。説明板によると、1945年4月旧日本軍の第58軍司令部が海岸防衛に

は限界があるとして、トーチカをこの高地に作ったという。トーチカはオスンセンオルム以外にも島内には多い。

(ウ)その他

島の南側海岸に幾つもの海岸洞窟がある。チョルウリオルム(松岳山)は標高 104m(比高 99m)で、麓の部分は崖となって海に没している。その崖の部分に小型船艇を格納する海岸洞窟が幾つも掘られている。



海岸に降りて行き、洞窟の中に入ることができる。入口に比べ、洞窟内部の広さに驚いた。満潮になれば洞窟まで海水が入って来るような設計になっているのであろう。オルムとは直接関連はないが、平地には旧日本軍の飛行場跡、格納庫跡、弾薬庫跡などセメント造りの旧日本軍の軍事施設が各所に残っている。

(つづく)